

感動の場

『裸婦』
1949 年 小川原 脩 画



この作品を目にした時にぱっと思い浮かんだのが、フランスの画家・アングルが描いた「グランド・オダリスク」（1814年、ルーブル美術館蔵）。皇帝ナポレオンの妹であるナポリ王妃カロリーヌの依頼を受け、当時流行していたオリエンタリズム（異国・東方趣味のこと）を取り入れトルコのハレムの女性を描いた作品です。

本作との共通点は、背中と臀部をあらわにし、こちらへ視線を投げ掛ける、ひねった体が印象的な美しく艶めかしい女性像であること。しかし、オリエンタルな調度品や実際の人体よりも伸びた表現で美しさを強調したアングルの作品に対して、小川原の裸婦は背景や小物は削ぎ落とされ、赤と白の明瞭な画面上に現実味のある肉体が横たわります。制作された1949年、小川原は38歳。戦後の混乱に翻弄されながら絵筆を握っていた当時としては大作であり、誰かに依頼され、描いたのかもしれませんが。その後、3人もの所蔵者を経たという本作は、今年の6月に鈴木保昭氏により当館へ寄贈され、コレクションに加わりました。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

倶知安の歌「歌謡編」

今回は、昭和63年3月に倶知安郷土研究会が発行した『倶知安郷土シリーズ7 倶知安の歌「歌謡編」』から、昭和の頃に倶知安町内で歌われていた歌や倶知安を題材にした歌謡曲を紹介します。

この冊子には、35曲の歌が掲載されています。例えば、皆さんが聴いたことのあるかもしれない『くまざさの さわぐ原野に 道拓かれし 我が町倶知安』ではじまる「倶知安町民の歌」、今でもじゃが祭りで踊られている「じゃが音頭」、レコードが出された「ニセコスキー小唄」、「ワイス小唄」、「ワイスホルンの恋」、荒木忠光が歌った「羊蹄の女」、東海林太郎が歌った「後志音頭」、太鼓のロクさんが歌った「北海の無法松」。また、「八幡音頭」、「倶知安剣道少年団の歌」、「倶知安青年の歌」、「倶知安農業学園歌」など団体や地域での活動の中で歌い、時には踊られた歌の歌詞がまとめられています。

これらの歌について、風土館には一部のレコードが保管されているだけで、実際どんな歌だったのかわからないものが多いです。もし、カセットテープなどの音源や楽譜をお持ちの方で、お貸しいただける方は、風土館にご連絡ください。なお、この冊子は風土館で読むことができ、北海道デジタルミュージアムのHPで閲覧することもできます。一緒にご当地ソングの歩みを調べて楽しんでみませんか。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



◀北海道デジタルミュージアムのHP ▶じゃが音頭のレコード

ふるさと探訪

496回

展覧会のお知らせ

■第1展示室

開館25周年記念小川原脩展「遥かなるイマージュ」

小川原脩がその長い画業において求め続けた「遥かなるイマージュ」。社会や自らを投影した「馬・犬・大白鳥」の作品や、自らの原風景と重なる「アジアの大地」を描いた作品群も紹介します。

会期：開催中～9月23日（月・振休）

■第2展示室

しりべしミュージアムロード共同展「紙にまつわるものがたり」

しりべしにある5つの美術館、文学館を巡る展覧会。当館は「画稿 紙から、はじめよう。」をテーマに小川原脩、木田金次郎、西村計雄の作品を展示しています。

会期：開催中～9月23日（月・振休）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

おとなの手しごと（28）「鳥絵作家と鳥のプローチを作ろう」

町内に在住の作家・武井ゆみこさんと石粉ねんどを使って、かわいい鳥のプローチを作ります。

日時：8月24日(土) 14時～16時 会場：ロビー（無料）

講師：武井ゆみこさん（鳥絵作家）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

予約受付：電話申込（☎21－4141）

世界美術館紀行

スイスにあるセガンティーニ美術館に所蔵されている作品をアルプスの風景とともに鑑賞します。

日時：8月31日(土) 14時～14時40分

会場：映像ルーム（無料）※予約不要

お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム「行こう！知ろう！羊蹄山」

羊蹄山の麓にある湖・半月湖を散策します。実際に自分の足で歩きながら、羊蹄山周辺の地形や自然について学んでみましょう。

日時：8月17日(土) 13時30分～16時30分

集合：倶知安風土館駐車場 定員：10名※要予約

参加費：250円（保険料）

講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰）

予約受付：8月9日(金)までに電話申込（☎22－6631）

★「第62回くっちゃんじゃが祭りうちわコンクール作品展」・「じゃが祭りポスター原画展」

子どもたちの描いたうちわデザイン画の入選以上の作品と倶知安中学校美術部が制作したじゃが祭りポスターの原画を小川原脩記念美術館で展示します。

展示期間：8月10日(土)～25日(日) 会場：ロビー（無料）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円（400円）

高校生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

8月の休館日 毎週火曜日、風土館のみ28

日(水)～30日(金)（臨時休館）

31日(土)までは夏休み期間のため美術館小中

高生観覧無料

しりべしミュージアムロード

岩内、共和、倶知安、ニセコ。

この近隣の4つのまちに、5つの美術館・文学館が点在しています。これを線で結んだものが「しりべしミュージアムロード」です。先月の広報でも特集を組んでもらいましたが、この近いエリアの中で一定規模以上の美術館や文学館がこれほどに集まっている場所は、都市部を除けば道内でここが一番かもしれません。

毎年夏に開催している共同展が、今年も7月13日から開催中です。

絵画といえば油彩をイメージする方も多いかもしれませんが、私たちに一番身近な素材といえば、やはり紙。各館の紙にまつわる趣向を凝らした展示を、ぜひご覧ください。

スタンプラリーも参加してもらえれば、画家や作家の意外なつながりも見えてきて、より深く楽しんでいただけたと思います。

もちろん私も参加しますよ！

館長 福原 秀和